研究フォーラム

日本の人類学における韓国研究

――その歴史的現在

日時：　2010 年 2 月 6 日 (土)　13:00 ~ 18:00

場所：　国立民族学博物館　本館 2 階 第 4 セミナー室

参加費不要　事前申込不要　使用言語：日本語・韓国語(同時通訳つき)

写真：嶋陸奥彦教授提供 ［上］ 1975 年 5 月 全羅南道 羅州郡 青山洞
［中］ 1985 年 1 月 慶尚北道 星州郡 上月洞
［下］ 2003 年 7 月 大邱広域市 大谷地区

13:00	受付開始	
13:30	開会辞	須藤 健一　（国立民族学博物館）
13:45		**第 1 部　ふり返る出発点、そしてその後の展開**
	司会	岡田 浩樹　（神戸大学大学院）
	講演	嶋 陸奥彦　（東北大学大学院） 「ふり返る出発点、そしてその後の展開」
14:45	コメント	金　光憶　（韓国・ソウル大学） 劉　明基　（韓国・慶北大学） 李　勛相　（韓国・東亜大学）
15:30	休憩	
16:00		**第 2 部　新しい韓国研究にむけて**
	司会	川口 幸大　（国立民族学博物館）
	パネル	山内 文登　（台湾・国立台湾大学） 中村 八重　（韓国・韓国外国語大学） 太田 心平　（国立民族学博物館）
	総合討論	
17:45	閉会辞	朝倉 敏夫　（国立民族学博物館）

研究フォーラムの御案内

この研究フォーラムの主たる検討対象は、戦後の日本における人類学的な韓国研究の動向である。

日本の人類学の黎明期、韓国研究は大きな位置づけをもっていた。また、その後の世界の韓国研究においても日本の人類学は先導的な役割を果たしてきた。この点から考えて、日本の人類学における韓国研究をふり返り整理することは、韓国研究の学史研究に寄与するばかりでなく、日本の人類学全体がどのような歴史的現在にあるのかを再考することにつながるだろう。

基調講演者の嶋陸奥彦教授は、戦後の日本人類学界における韓国研究の第一世代の一人として 1970 年代の初めより韓国でフィールドワークを重ねており、1980 年から国立民族学博物館で続く韓国研究の共同研究においても主導的役割を担ってこられた。コメンテーターとして来日される金光憶教授、劉明基教授、李勛相教授は、嶋教授の韓国での研究の最もよい理解者である。これに加え、今後の韓国研究を担う若手研究者がその抱負を語り、議論しあうことにより、将来の展望を示すことも出来るだろう。

この研究フォーラムは、国立民族学博物館が日本学術振興会から受託する二国間交流事業「人類学における韓国研究の検討と展望」（平成 20～21 年度）、および国立民族学博物館の共同研究「人類学における韓国研究の再検討――日韓の新しい研究協力関係の構築」（平成 18～20 年度）の成果公開の一環である。

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構

国立民族学博物館

〒565-8511　大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号

本件に関するお問い合わせ先：
研究協力課　国際協力係
電話 06-6878-8235　FAX 06-6875-0401

交通の御案内

●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車徒歩約 15 分

研究フォーラムのみ参加の方は、自然文化園を通行する際に入園料が必要となります。ただし、常設展も御覧になる方は、自然文化園のゲートにてみんぱくの観覧券をお買い求めになれば無料で通行できます。

●バス

阪急「茨木市駅」ないしJR「茨木駅」より、近鉄バス「阪大本部前行き」に乗車、「日本庭園前」で下車、徒歩 15 分。または、阪急「茨木市駅」ないしJR「茨木駅」より、阪急バス「万博記念公園経由千里中央行き」に乗車、「自然文化園・日本庭園中央」で下車、徒歩 5 分。

●タクシー　●自動車

万博記念公園の「日本庭園前駐車場」まで乗り入れ、徒歩 5 分。みんぱくへの車両の乗り入れは出来ませんので、御了承ください。

詳しい交通や地図をウェブサイト（http://www.minpaku.ac.jp/museum/information/access.html）で御覧いただけます。